形 成 外 科

1　構 成 員

	平成21年3月31日現在
教授	0人
准教授	1人
講師（うち病院籍）	0人　（　0人）
助教（うち病院籍）	2人　（　1人）
助手（うち病院籍）	0人　（　0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	2人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人　（　0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合　　計	5人

2　教員の異動状況

深水　秀一（准教授）　（H19. 2. 1～19. 3. 31　助教授；19. 4. 1～現職）
藤原　雅雄（助教）　（H19. 4. 1～現職）
鈴木　綾乃（診療助教）（H19. 4. 1～21. 3. 31　医員；21. 4. 1～現職）
水上　高秀（医員）　（H19. 4. 1～現職）
永田　武士（医員）　（H21. 4. 1～現職）

3　研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	7編　（　0編）
そのインパクトファクターの合計	11.973
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編　（　0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編　（　1編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1編　（　1編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Fujiwara M, Nakamura Y, Fukamizu H Treatment of giant congenital nevus of the back by convergent serial excision Journal of Dermatology 35; 608-610, 2008 ［0.694］
2. Suzuki A, Fujiwara M, Mizukami T, Fukamizu H Delayed distally based super sural flap: Evaluation by indocyanine green fluorescence angiography J Plast Reconstr Aesthet Surg 61(4): 467-469, 2008 ［1.182］
3. Fujiwara M,, Kawakatsu M., Fukamizu H Two-stage arthroplasty with joint distraction and costal osteochondral grafting for ankylosis of a metacarpophalangeal joint: Nine years' follow-up J Plast Reconstr Aesthet Surg 61(6): e1-e4, 2008 ［1.182］
4. Fujiwara M, Fukamizu H. Delayed wraparound abdominal flap reconstruction for a totally degloved hand. Hand Surg. 13(2): 115-9, 2008［0］.
5. Fujiwara M, Yamamoto T, Kawakatsu M. The six V-flap technique for preputial stenosis. J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2008;61(2): 214-7. ［1.182］

インパクトファクターの小計　［4.24］

B．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Ito T, Ito N, Saatoff M, Hashizume H, Fukamizu H, Nickoloff BJ, Takigawa M, Paus R Maintenance of hair follicle immune privilege is linked to prevention of NK cell attack. Journal of Investigative Dermatology 128;1196-1206, 2008［4.829］

インパクトファクターの小計　［4.829］

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. Ito R, Fujiwara M, Kaneko S, Takagaki K, Nagasako R. Multilocular giant epidermal cysts. J Am Acad Dermatol. 2008 May;58(5 Suppl 1): S120-2.

インパクトファクターの小計　［2.904］

(4) 著　　書

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 深水秀一，藤原雅雄：神経線維腫症（レックリングハウゼン病）．鈴木茂彦編，PEPARS. No21. 皮膚腫瘍　外来治療のコツ，全日本病院出版会，東京，pp. 6-12, 2008.

(5) 症例報告

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 岡本康子，池松禎人，酡島桂子，深水秀一
   アルギニン補給は褥瘡栄養療法に必須である
   アルジネード投与 3 症例の経験～

日本病態栄養学会誌11（2）：143-149，2008　［0］

インパクトファクターの小計　［0.00］

4　特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5　医学研究費取得状況

	平成20年度
（1）文部科学省科学研究費	0件　（　0万円）
（2）厚生科学研究費	0件　（　0万円）
（3）他政府機関による研究助成	0件　（　0万円）
（4）財団助成金	0件　（　0万円）
（5）受託研究または共同研究	0件　（　0万円）
（6）奨学寄附金その他（民間より）	2件　（ 70万円）

7　学会活動

	国際学会	国内学会
（1）特別講演・招待講演回数	0件	0件
（2）シンポジウム発表数	0件	0件
（3）学会座長回数	0件	4件
（4）学会開催回数	0件	0件
（5）学会役員等回数	0件	1件
（6）一般演題発表数	0件	

（2）国内学会の開催・参加

4）座長をした学会名

第51回日本形成外科学会総会学術集会，第43回日本形成外科学会中部支部学術集会，
第52回日本形成外科学会中部地区東海地方会，第16回日本熱傷学会東海地方会

（3）役職についている国際・国内学会名とその役割

深水秀一　日本形成外科学会評議員

8　学術雑誌の編集への貢献

	国　内	外　国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9　共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10　産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	0件

12　研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. インドシアニングリーン（Indocyanine green）を用いた皮弁の血行動態の評価
2. 皮膚悪性腫瘍におけるインドシアニングリーン（Indocyanine green）を用いたセンチネルリンパ節（sentinel lymph nodes）の同定と評価

上記について論文発表および学会発表を行った。